

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

高島藤樹会の活動

十二月、第二百二十回人間学塾を開きました。参加者は初めての女性二人を含んで十一人でした。

今回で『中庸解』は最終です。皆で輪読し、大意を話しました。

「教養人は徳性を尊ぶゆえに上の地位にいても偉そうにせず、下の地位になっても無駄な反抗はせず、道理の通る時世であれば互いに志を立てて徳のある行動をし、道理が通らない時世であれば自分の身を修めて時節の到来するのを待つ。詩にも言われている。良知の本体の明が大宇宙とつながっているその身体を守る」と。

この節は人道を説いているので、聖人の具体例として『代表的日本人』の話をしました。参加者からは「改めて生きていることに感謝しながら一日を大切に生

きたいと思った」、「自分を内観でき気付きを得ることができた。日々の生活に活かして豊かに生きたい」等の意見、感想をいただきました。

令和四年一月、第二百二十一回人間学塾を開きました。今回の参加者は十一人でした。

今回は、『代表的日本人』のうち中江藤樹の章を皆で輪読しました。そして大意を話しました。

参加者から「この本の最後の記述『崇高な目的を持って生きていければ、目立たない人生であっても影響を与えられることを、私たち誰もが藤樹から学べるのではないでしょうか』に共感した」、等の意見、感想をいただきました。

二月、第二百二十二回人間学塾を開きました。大雪で七人の参加でした。今回から藤樹の最晩年の著作『鑑草』です。これは、先生が女性の生き方について中国の故事を参考に書かれたもので、儒学、陽明学と共に仏教思想も入っている興味深いものです。原文と現代語訳を読みま

した。今回は序文です。大意は以下のとおりです。「世の中のいろいろな幸福を比べてみて、三段階に分けると



すれば、最上は健康と心の安寧そして子孫の繁栄、二番目は長生きすること、最後が出世して裕福になることです。

これら幸福の種は明德仏性（全ての人に生まれつき備わっている良心）です。明德仏性を明らかにして、どんなことにも執着せず、怒らず、頑固にならず、不機嫌になることがないようにしましょう。親への孝行に真心を尽くし、夫には素直に従い、子供を正しく育て、夫の親族にはそれぞれ親切に接して、使用人には思いやりを持ち、身分の低い人に慈悲を持って恵み与えることが明德仏性の修行になるのです。

この修行に真心あれば、人は必ずそれぞれが生まれ持っている幸運を得ることは間違いありません。その後、藤樹を目標に生きた清水安三さんの話をしました。

参加者から「物事が上手くいかないときは過去に原因があったのだと思うと受け入れ易い」、「『鏡草』の時代と現代の時代背景の差はあるがその精神は現代にも十分価値があるものと思える」等の意見、感想をいただきました。

三月、第二百二十三回人間学塾を開きました。参加者は十人でした。今回は『鑑草』第一巻「孝行と不孝の報い」の序と第一話「姑の死を望んだ不孝な嫁」です。皆で輪読しました。

大意は「人間は生まれつき明德仏性を持っているので、本来は嫁と姑も仲良くするはずだ。しかし自他の区別をするようになると、関係が悪化する。だから嫁が常に明德を明らかにして孝行する真心があれば、姑も必ず心の曇りが晴れて本来の慈愛の心がわき起こり家庭融和、子孫繁栄するものである。これに関連する事例のお話」です。

江戸封建時代の男尊女卑、家中心の考え方と現代とは時代背景は大きく異なりますが、対人関係において、嫁と姑に限らず自己中心の考えでは上手く行かないことは共通しています。そこで参考資料を使って、「祈る」ことの効用が大きいこと、前向きに生きることが人生を豊かにすることなどの話をしました。

参加者から「人は知識教育については人類が今までに蓄積した知識を学ぶことができるが、人間学は蓄積ができないので、各人が一から学んでいく必要がある」、等の意見、感想をいただきました。

人間学に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

藤樹人間学塾 今後の予定

五月七日（土）、六月四日（土）、
七月二日（土）、八月六日（土）

■時間（原則） 十五時～十七時

■場所（原則） 安曇川公民館